

フランスにおける映画教育 (2)

L'enseignement du cinéma en France (2)

森 田 秀 二 *

MORITA Shuji

Résumé : Dans cette partie de notre travail, nous nous limitons à montrer comment en France l'éducation au cinéma est organisée et dispensée à l'école élémentaire et au collège (dans la prochaine publication de la revue, nous en rendrons compte au niveau supérieur). Cette éducation originale est le fruit de la longue tradition de l'amateurisme appelé "cinéphilie" ainsi que des recherches scientifiques menées depuis la fin de la Guerre ("filmologie" et puis "sémiologie du cinéma"). Voici les principes qu'elle se fixe : le cinéma étant enseigné comme art (et non pas comme outil didactique), la culture cinématographique devant être partagée démocratiquement par tous les élèves au moyen des cours les plus divers (pratique artistique, histoire des arts) et des activités facultatives (atelier artistique, classe à projet artistique et culturel [PAC]) soit dans l'école soit en dehors de l'école. Il nous reste à examiner comment ces principes basés sur la passion cinéphilique se concrétisent dans les classes artistiques.

mots-clé : France, filmologie, sémiologie, enseignement artistique et culturel, éducation au cinéma,

キーワード : フランス、映画学、記号論、芸術文化教育、映画教育

3. 戦後の映画教育：日本とフランス

日本の学校教育では伝統的に音楽、美術などの芸術教育は極めて活発である。一方、すでにみたように、映画については教材としての利用はあっても映画教育は存在しない。戦前の教育状況についての関野嘉雄の批判はある程度は今日の日本の現状にも当てはまるであろう。

「性急過剰な「教育的」要求が常に提出されがちであり、映画の「内容」についての近視眼的論難が絶えずくりかへされる一方に、その構成・表現に関しては驚くべき無関心さが表明されるだけであった。」¹

「映画による、映画のための学習の場」として講堂映画会に夢を託した戦前の映画教育の中心人物関野の願いは虚しく、戦後教育においても映画は教材代わりの「動く掛図」の位置にとどまっている感は否めない。この点は文部科学省特別選定映画、および選定映画の現状をみても一目瞭然である²。

以下では平成 23 年度下半期～24 年上半期の特別選定映画のみを挙げておく。

* 言語文化教育講座

フランスにおける映画教育（2）

	特別選定映画
平成 23 年度 10 月	該当なし
平成 23 年度 11 月	学校教育用『鉄釉陶器－原清のわざ』：小学校（高学年）・中学校・高等学校〔図画工作、美術、美術・工芸〕 社会教育用『鉄釉陶器－原清のわざ』：少年向き・青年向き・成人向き
平成 23 年度 12 月	社会教育用『ちきゅうをみつめて』：少年向き 一般劇映画『わが母の記』：青年向き・成人向き・家庭向き
平成 23 年度 1 月	学校教育用『真剣に考えよう 自転車のこと』：小学校（中学年）・小学校（高学年）・中学校〔特別活動〕 社会教育用『真剣に考えよう 自転車のこと』：少年向き・成人向き 一般劇映画『はやぶさ 遙かなる帰還』：青年向き 一般劇映画『少年と自転車』：青年向き・成人向き・家庭向き
平成 23 年度 2 月	該当なし
平成 23 年度 3 月	学校教育用『ぶどう酒びんのふしぎな旅』（藤城清治）：小学校（高学年）中学校〔国語〕 社会教育用『ぶどう酒びんのふしぎな旅』（藤城清治）：青年向き・成人向き 一般劇映画『ぼくたちのムッシュ・ラザール』：青年向き・成人向き
平成 24 年度 4 月	社会教育用『いつもの幼稚園に戻ることに～2011 年 岩手県大槌町～』：成人向き 一般劇映画『グスコブドリの伝記』：青年向き
平成 24 年度 5 月	該当なし
平成 24 年度 6 月	社会教育用『流 ながれ』：青年向き・成人向き
平成 24 年度 7 月	該当なし
平成 24 年度 8 月	該当なし

このリストを見ると学校教育用で選ばれるのは学科目に対応したものであり、あくまでも教材として映画が選ばれていることがわかる。それからしばしば学校教育用と社会教育用の映画が同一映画であることにも驚かされるが、映画を教育的内容を伝えるための媒体ととらえていることの証左であろう。また、該当作品のない月もある。そもそも毎月新作から選ぶ必要があるのだろうか。年毎に選ぶこともできるだろうし、フランスのように映画史のなかから優れた作品を選んで推薦するという考え方もあろう。映画館上映とは別にビデオ、DVD という種別枠も新たに加えられているから、封切りの新作以外も鑑賞対象として推薦することも今日ならば可能なはずである。ただ、規定に「教育に利用される映像作品等の質的向上に寄与する」とあり、過去の文化遺産への関心よりは映像制作現場への波及効果に重心がおかれている。基本的なスタンスは発足時（昭和 29 年）から大きくは変わっていないのである。また、実際上の問題として新作映画ならば推薦しても鑑賞の機会がある程度確保されるが、古典的名作を推薦した場合は上映あるいは DVD の確保など鑑賞機会をいかに担保するかという問題が派生する可能性がある。このあたりは映画事業者との連携も厭わないフランスとはいかんともしがたい文化伝統の違いである。

新しい時代のメディアである映画は現代を映し出す表象機能をもつ一方で、通常の言語とは異なる新しい視覚言語として独自の文法をもつ。関野嘉雄にすでに見られた映画に対するこうした見方とそれを教育にも取りいれようとする姿勢が戦後日本においても決定的に欠落していた。これに対してフランスの映画教育状況は大きく異なる。関野の言う「映画による、映画のための学習」が義

義務教育から大学教育に至るまできちんと担保されているのである。

フランス教育省 (L'Education Nationale) のホームページ (2012 年 3 月版) には映画教育の主旨が次のように述べられている。

「フランスの学校教育では映像教育として映画 (le cinéma) や視聴覚教育 (l'audiovisuel) を重要視している。子供たちが最初に身につける文化的習慣 (pratique culturelle) は、映画・写真・テレビ・ビデオゲーム・インターネット等、いずれも映像にまつわるものである。映像はコードや技術が日進月歩する複雑な言語だが、学校教育では 20 年以上にわたってこの言語の理論的かつ実践的教育を行ってきた。初等教育から始まる映像・映画・視聴覚教育により生徒は文化を学び、芸術的实践を行い、新しい職業を発見する。」³

短い文章だが、フランスの映像教育に対する覚悟が社会的分析やこれまでの映像教育実践を踏まえて述べられているので少し敷衍して説明を加えておこう。

文化的習慣 (pratique culturelle) という表現は文化資源を消費する行動一般 (具体的には読書、音楽・映像・美術作品などの鑑賞、アマチュア文化活動など) を指すが、ここでは特に映像文化の多様化、大衆化により映像資源の消費行動が極めて活発になっているとする社会的分析を踏まえている。こうした現状に対して学校教育はどう取り組んできたか。伝統的な教育は書き言葉が中心で他の文化資源は等閑にされがちだが、フランスでは 20 年来映像教育にも力を注いできた。その際、映像を一種の言語ととらえる映画記号論の成果を取り入れてきたという自負が「映像はコードや技術が日進月歩する複雑な言語」「この言語の理論的かつ実践的教育」といった言い方に感じとることができる。キャリア形成との関連も考えているという締めくくりには教育のアウトプットも確認すべきだとする新しい社会的要請へのレスポンスも聞き取れるだろう。

映像教育は別にフランスの専売特許というわけではなく、英国やカナダをはじめとする英語圏でも盛んである。ただ、こうした国はいわゆるメディア・リテラシーの教育が中心である。つまり、我々が意識しないうちに我々の考え方や感じ方までも支配しうるメディアクラシー (メディア専制) に対して批判的な視点を教育しようとするものだ。フランスの映像教育はこれとは似て非なるもので、最も発達した映像媒介として映画を特権化するのである⁴。そのために教育プログラムには映画関係のプロ (監督、裏方、配給者、映画館経営者、研究者、批評家など) を動員している。20 年来の実績というのはフランス国立映画センター (Centre national de la cinématographie、2009 年の改組後は Centre national du cinéma et de l'image animée、以後 CNC と略す) という組織が中心となり、1994 年以降行ってきた小中高での映画鑑賞教育を指す。これについては後で詳しく触れる。

フランスで映画教育が制度化されるに至った歴史的背景として戦前から戦後にかけてのシネフィルの存在についてはすでに触れたが、戦後の高等教育研究レベルでの状況も見ておく必要がある。学校教育への導入に先立つアカデミズムでの歩みがあったからである。

終戦後の 1947 年にはパリ映画学研究所 (l'Institut de Filmologie à Paris) がソルボンヌ内に設立される⁵。これは「映画」について学際的な研究を行うセンターであり、実験心理学 (アンドレ・ミショット、アンリ・ワロン)、芸術史 (ピエール・フランカステル)、社会学 (エドガー・モラン)、映画史 (ジョルジュ・サドゥール)、哲学 (ジルベール・コアン・セア)、美学 (エティエンヌ・スーリオ) といった各分野を代表する錚々たる学者たちを擁していた⁶。それまで映画批評や映画史に限られていた映画研究の幅を拡げ、心理学・社会学・神話学・音楽などの各分野の専門家たちがそれぞれの知見を映画的事実 fait filmique という豊饒で優れて現代的な対象に適用することで、映画研究を豊か

にすると同時にそれぞれの専門的知見との相乗効果をねらったものと言える。研究成果は研究誌『国際映画学誌』*Revue internationale de filmologie* (1947 年～1962 年) に発表され、さらに単行本としても出版された⁷。

フィルモロジーは映画を対象とする初めての学問分野として後の映画記号論 *la sémiologie du cinéma* を準備するものだが、創立者コアン・セアの政治的手腕により生まれたパリ映画学研究所の短い命運とともに消え去ることになる⁸。学問分野として確立する前に消滅したのである。本来学際的なはずのパリ映画学研究所の研究が次第に心理学色を強めるなかで、言語学と映画との対話が欠けていることを指摘し、これを新たに提案したのが後に映画記号論の雄となるクリスチャン・メッツだが、パリ映画学研究所に対する国家援助が打ち切られるとともに、映画学の中心はクリスチャン・メッツが教鞭をとる社会科学高等研究院 (l'École des hautes études en sciences sociales EHESS) に移ることになる。

1960～1970 年代に人文科学の「科学的」方法として大流行する記号論は、元々言語学から派生した学問分野である。ところが、ソシュールは言語学を一般記号論の一分野にすぎないとした。これに対し、言語があまりにも複雑で特権的な記号なので、言語を説明できればその他の記号も説明できるはずであるとする言語中心主義的な考え方が出てくる。記号論を映画研究に体系的に取りいれようとしたクリスチャン・メッツの映画記号論も似たような逆説を抱えることになる。つまり、映画記号は一般的な映像記号 (テレビ、CM、アニメ、今日ならばコンピュータゲームやインターネットを加えることもできる) などの一種にすぎないが、あまりにも高度に磨きあげられた記号なので映像記号の雄として、これを特権的に研究すれば他の映像記号分析にも応用できるはずだとする映画中心主義的な考え方である。フランスの映画教育は文化実践面でシネフィルの伝統を受け継ぎつつ、理論面でもそれを補強するかのようにこのような映画中心主義の影響が強いと考えられる。

記号論の波を受けて、1970 年代には欧米の数多くの大学で記号論を取り入れた映画研究を専門とする学部が生まれた。フランスでは元々ある文化省管轄の高等映画学院 (IDHEC、1986 年に改組して la Fémis [国立映像音響芸術学院] となる)、教育省管轄のルイ・リュミエール国立学校 (ENS Louis-Lumière) などの映画専門学校に加え、多くの大学で映画研究課程が創設された。パリだけを例にとっても現在、パリ第 1 大学、第 3 大学、第 7 大学、第 8 大学、パリ東大学 (L'Université Paris-Est Marne-la-Vallée) で映画を学ぶことができる⁹。小・中の義務教育で映画に親しんだ子どもたちが高校の選択科目、バカロレア試験と勉強を続け、さらには大学の学士、修士、博士課程で専門的な勉強を続けることができる仕組みができていたのである。大学生向けの出版も極めて盛んである。教育関係の代表的な出版社だけを取り上げるなら、ナタン社 (Nathan) は大学生向けの「映画 ("cinéma")」シリーズで *Le Récit cinématographique* (André Gaudreault, François Jost 共著) をはじめ 19 点、「シノプシス ("synopsis")」シリーズで 30 点出版している。アルマン・コラン社 (Armand Colin) の「映画 ("cinéma")」シリーズでも *Esthétique du film* (Michel Marie, Jacques Aumont, Alain Bergala, Marc Vernet 共著) をはじめ 18 点出版している。

以上は研究および大学教育レベルの話だが、初等・中等教育レベルにおける映画教育はどのような軌跡を描いてきたのだろうか¹⁰。

まず指摘しておかなければならないのは、芸術の国フランスでは映画はもとより音楽、美術などの芸術教育ですら、幼稚園を別にすれば実はそれほど重要視されてこなかったという事実である¹¹。状況が変わるのは 70 年代である。1969 年には小学校で学校時間の 1/3 を目覚め教科と体育に充てることになり、1973 年には学校時間の 10% を生徒と先生が決める活動に充てることになるところなどゆとり化が進み、1975 年には初等・中等教育における芸術教育の充実が法制化される。また、同時期に音楽を中心に文化政策も進み、1971 年の第 5 次計画 (Vème Plan) では機会均等の民主主義社会の発

展には学校教育を通じた文化教育が必要であるという考え方がはじめて打ち出される。この考え方が今日の芸術文化教育にも引き継がれている。さらに、1971年の文化活動基金 (Fonds d'intervention culturelle [FIC]) で先鞭をつけられた文化政策における教育省と文化省の連携もリエゾン組織である文化行動ミッション (Mission d'action culturelle) の設立 (1977年) により具体化され、1983年には教育相と文化相との合意プロトコルが結ばれ、これをもってフランスにおける本格的な文化教育政策がスタートすることになる。

やがて、ここまで音楽が中心に動いてきた文化教育政策が次第に映画にも適用されるようになる。まず、1984年には学校での芸術教育が造形芸術 (arts plastiques) にも拡大され、1985年にはあらゆる創造的・文化的活動に開かれた文化クラス (classes culturelles)、中学には「芸術実践アトリエ (ateliers de pratiques artistiques)」が設けられる。映画という名前がはじめて教育に登場するのは1985/86年度に高校の人文系科目オプションに「映画と演劇 (A3 cinéma et théâtre)」が加わったときである。その結果1989年には映画がバカロレア試験L (人文) のオプションに加えられることになるのである¹²。1988年には学外のアーティストやプロフェッショナルの芸術教育への参加も認められ、1991年には映画鑑賞プログラム「映画館の中学生 (collège au cinéma)」がスタートする。映画鑑賞プログラムは教育省が国立映画センター (Centre National de la Cinématographie [CNC]) と協同で行う学校と映画館をつなげるプログラムだが、1994年には小学校 («小学校と映画 (école et cinéma)」、1998年には高校 («映画館の高校生・見習い (Lycéens et apprentis au cinéma)») にも拡大される。映画は映画館でみるべきだとするシネフィルの精神がこのシネクラブの学校版とも言えるプログラムにも息づいているように思われる。なお、文化政策の地方分権化の流れを受けて、映画鑑賞プログラムなど映画教育を各地方でコーディネートするのが文化コミュニケーション省の出先機関である地方文化事業局 (Direction régionale des Affaires culturelles [DRAC]) である。

その後、1999年には高校に「芸術表現アトリエ (ateliers d'expression artistique)」が設けられ、表現・制作活動が強化される。中学の「芸術実践アトリエ」と高校の「芸術表現アトリエ」は2001年に「芸術アトリエ ateliers artistiques」に一本化されるが、これは教師のイニシアティブにより、アーティストやプロフェッショナルの参加を含む企画を提出し、審査を受けて予算化される仕組みになっている。2000年に当時の教育大臣ジャック・ラング (Jacques Lang) が提出した五カ年計画 (Plan de 5 ans) では学校での芸術文化教育の強化のために「芸術文化プロジェクト・クラス (classe à projet artistique et culturel [PAC])」¹³ が導入された。このなかでは教員とコーディネータなど関係者の養成にも触れているが、予算化はされなかった。

最後に、最近の動きとして「芸術史 (histoire des arts)」¹⁴ の追加を挙げておこう。この新科目は2008年に小学校に導入後、2012年から中学に新たに必修科目として導入された横断科目で、音楽、造形芸術、歴史、地理などの先生を中心に全教員が参加することになっている。芸術6領域について、歴史で習う年代に合わせて学ぶ、知的な芸術文化鑑賞力の素地を作る試みと言える。

このようにフランスでは芸術教育が遅ればせながらも独特の進歩を遂げ、それが映画教育にも適用されるようになったのである。その特長は以下のようにまとめることができるだろう。

- 1) 映画を (教材としてではなく) 芸術として扱う。
- 2) 映画的教育を誰にでも (民主的に) 身につけさせる [必修]
 - ・「芸術実践」により芸術的感性・表現力を伸ばす。
 - ・「芸術史」の文化的知により映画的教育を充実させる。
 - ・教員チームによる複数教科横断科目
- 3) 芸術実践 (映像制作) プロジェクト (芸術アトリエ、PAC) [選択: クラス単位の参加]

- ・教師のイニシアティブによる
 - ・教育へのアーティスト、プロフェッショナルの参加 [本物志向、外部との連携]
- 4) 芸術文化の場へ直接赴く (映画館での映画鑑賞) [選択: 学校単位の参加]
- ・CNC、DRAC との連携 [国と地方の連携、文化政策の地方分権化]
 - ・映画館、プロフェッショナルとの連携 [本物志向、外部との連携]
- 5) 教育省と文化省の連携 [文化大国としての威信]
- 6) 教員とコーディネータの養成

4. フランスにおける義務教育の現在¹⁵

フランスでは幼稚園でも映像教育が行われ、子どもたちはスクリーンやパソコン画面に映る映像をよく見て、それを使った遊びをしたり映像を作ったり加工したりする。幼稚園から始まる映像・映画・視聴覚教育は以降学年進行に合わせ多様な形態をとり、義務教育を終える段階では生徒たちに必要な知識と技能を身につけさせるという目的をもつことが教育省のホームページで明示されている。

それでは映画・視聴覚教育が位置づけられるそもそもの大枠の教育プログラム全体は現時点でどのようなになっているのだろうか。少し寄り道をすることになるが、フランスは教育システムが目まぐるしく変わる国である。最新状況を見ておくことにも意味があろう。

近年の動きとして、教育および成績評価のプロセスを透明化・システム化して、教育効果を高めようとする傾向が見られる。そのために、2005 年の法律では義務教育終了時 (14~16 才) に生徒が身につけていなければならない知識、技能、態度 (開放性、好奇心、創造性、自己・他者への敬意) などを「知識・能力共通基盤 (socle commun de connaissances et de compétences)」として設けている。共通基盤は学業成績のみならず、将来にわたる個人・市民としての円滑な生活をも想定する長いスパンでの人間教育を目指すものだが、これに基づき 2011 年度より 7 領域の基盤を修得することが、国家中等教育修了証書 (diplôme national du brevet [D.N.B.]) を得る条件となった。

共通基盤の 7 領域は以下の通りである。

- ①フランス語習得 (最重要。読む [多様なテキストの読解力]、書く、話す、つづりと文法、語彙力)
- ②外国語 [一カ国語] (平易な表現の聞き取り、平易なテキストの読解。日常的表現で話し、書くことができる)
- ③数学基礎、科学的・技術的教養 (計算、幾何による解法。地球・宇宙の仕組み、物質とその物理化学的性質、エネルギー、生命の特長 [細胞・生物多様性・種の進化]。技術設計・製作・運転。知識獲得と研究方法。持続的発展の大切さ)
- ④情報伝達技術の習得 (情報伝達テクノロジーの責任ある使用→小中学校で情報・インターネット免状 [B2i]¹⁶ 取得)
- ⑤人文的教養 (判断力・趣味・感受性を育てる。歴史 [歴史的出来事]、地理 [風景と領土、世界の人々]、文学・芸術 [名作]、鑑賞による芸術史入門、作品制作)
- ⑥社会・公民の学習 (個人・公民として社会生活の基本ルールを学校内で適用。公民の権利と義務、責任と自由、法治国家の原則、制度・国家・EU の仕組み)
- ⑦自立と自発性 (各教科、各活動を通して修得。作業での自立性、計画・実行プロセス [研究発表の構想、インターンシップ先の開拓、クラブ加入、グループ活動]、進路設計。個人、社会人・職業人として人生の各ステップ [学業、進路] に適用できるようにする)

以上が中等教育最終段階での到達目標ということになる。持続的発展、情報伝達テクノロジー、公民といった現代世界を把握し、生きる上で重要なキーワードが散りばめられている。また、単に知識を学ばせるだけではなく、情報・インターネット免状、作品制作、自立と自発性など、具体的なノウハウを身につけさせようとする意気込みが感じられる。中等教育最終段階に至る川上にある幼小中の仕組みについても触れておこう。

オリエンテーション法 (Loi d'orientation, 1989 年) により、1990 年以降幼小教育の学習領域及び目標は、以下の表のように 3 年を 1 サイクルとしてサイクル毎に設定されている。

幼稚園 (école maternelle)

サイクル	対応学年	学習領域・目標
第 1 サイクル 初期学習期 cycle des apprentissages premiers	年少 (PS) 年中 (MS) 年長 (GS) ¹⁷	①言語活動を身につける、書き言葉を発見する ②生徒になる ③身体を使って行動し、表現する ④世界を発見する ⑤知覚し、感じ、想像し、創造する ¹⁸

小学校 (école élémentaire) : []内は年間学習時間

サイクル	対応学年	学習領域・目標
第 2 サイクル 基礎学習 cycle des apprentissages fondamentaux	年長 (GS) 小 1 (CP) 第 11 学級 小 2 (CE1) 第 10 学級	①フランス語 [360 時間／年] ②数学 [180 時間／年] ③体育・スポーツ [108 時間／年] ④外国語 [54 時間／年] ⑤芸術実践と芸術史 [81 時間／年] ⑥世界の発見 [81 時間／年] ⑦公民・道徳 ¹⁹
第 3 サイクル 発展学習期 cycle des approfondissements	小 3 (CE2) 第 9 学級 小 4 (CM1) 第 8 学級 小 5 (CM2) 第 7 学級	①フランス語 [288 時間／年] ②数学 [180 時間／年] ③体育・スポーツ [108 時間／年] ④外国語 [54 時間／年] ⑤実験科学とテクノロジー [78 時間／年] ⑥情報伝達技術 [81 時間／年] ⑦人文教養：歴史・地理 ⑧公民・道徳 [歴史・地理と合わせて 78 時間／年] ⑨芸術実践と芸術史 [78 時間／年：内 20 時間は芸術史 (横断科目)] ²⁰

中学 (collège) からは 3 年 1 サイクルではなくなり、中 1、中 4 は各 1 年で 1 サイクル、中 2、中 3 の 2 年間で 1 サイクルとしてまとめられる。

適応期 cycle d'adaptation	中 1：第 6 学級	①フランス語 ②数学 ③外国語 ④古代の言語・文化
中間期 cycle central	中 2：第 5 学級 中 3：第 4 学級	⑤歴史・地理・公民 ⑥生命科学・地球科学 ⑦物理・化学 ⑧テクノロジー ⑨音楽・造形芸術
進路計画期 cycle d'orientation	中 4：第 3 学級	⑩体育・スポーツ教育 ⑪芸術史 ⑫情報科学・インターネット ²¹

適応期は小学校で学んだ基礎を固めるとともに、中等教育の科目や学習方法へ慣れさせる入門段階に当たり、小 5（CM2）時点での各生徒の成績評価に応じたクラス編成や個別指導が行われる。中間期は学習発展期で、外国語を例にとれば、中 2（第 5 学級）からラテン語が選択できるようになり、中 3（第 4 学級）からは第 2 外国語または地方語²²の学習が始まる。中 4（第 3 学級）の進路計画期は中等教育の完成期であるとともに、職業教育も選択できるようになる。

5. フランスの義務教育における映画教育²³

フランスにおける映画教育は、前章で挙げた義務教育の目標「知識・能力共通基盤（socle commun de connaissances et de compétences）」を踏まえていることをまずおさえておく必要がある。具体的には共通基盤の 5 番目の柱である「人文的教養」のさらに下位区分である「文学・芸術 [名作]、鑑賞による芸術史入門、作品制作」に対応する。これを川下の学校別に見ていこう。

前章でみたように、一番の川下にある幼稚園が設定する 5 領域の最後は「知覚し、感じ、想像し、創造する」であり、芸術的感性を養う第 1 歩がここに始まる。なかでも視覚的活動（activités visuelles）と呼ばれる項目は、先にも触れたように多様な映像をスクリーン上やコンピュータ上で眺め、自らも描き、これと遊び、さらに操作しながら作品を制作するという活動が設定され、小学校以降の映画教育を準備している。

小学校の 1, 2 年（第 2 サイクル）で、映像・映画・視聴覚教育（l'éducation à l'image, au cinéma et à l'audiovisuel）と呼ばれる教育がいよいよ始まる。大枠の必修科目視覚芸術（arts visuels）では伝統的技術（デッサン、造形芸術）に加え、映画など現代技術も対象としているからである。2 年では DVD 鑑賞が始まるが、生徒たちは鑑賞するだけでなく批評や解釈も学ぶ。さらに、制作計画をたてて作品制作も行うなど実践的な教育が求められている。小学校の 3～5 年（第 3 サイクル）では映像の創作・分析を通じて映像についていろいろな角度から考える。そのために映画（フィクション、ドキュメンタリー）、アニメ、ビデオクリップ、テレビ番組など鑑賞作品も複雑なものになる。

以上のような基本を学ぶ必修授業を補完するものとして、教師のイニシアティブによって成立する体験型授業の芸術文化プロジェクト・クラス（classe à projet artistique et culturel [PAC]）がある。これは小中学生（職業リセも含む）を対象とした体験型授業である。従来の必修科目（音楽、造形芸術）よりも広い領域を対象とし、建築、映画・視聴覚、ダンス、デザイン、文学、文化遺産、写真、演劇もこれに含まれる。教師のイニシアティブにより、プロフェッショナルの参加（8～15 時

間／年）を含む企画を地方教育委員会（rectorat）ならびに文化活動地方理事会（Direction régionale des affaires culturelles [DRAC]）に提出し、審査を受けて予算化される。

中学ではフランス語、歴史・地理、外国語、生命・地球科学などの科目で写真資料やアニメなどの映像教材を使う。また、中2、中3では発見学習（IDD）のテーマ系のうち「芸術と人文」「創造と技術」「言語と文名」「自然と人体」などが映画や視聴覚を取り入れた個人研究の対象になる。

映像を芸術表現として扱うのは芸術科目の一つである「造形芸術（arts plastiques）」、および「芸術史（histoire des arts）」の時間である。

映画を含む必修科目として、ここでは2012年より新しく加わった「芸術史（histoire des arts）」を見ておこう。これは以下の芸術6領域を対象とする。

1. 空間芸術（arts de l'espace）：建築、造園
2. 言語芸術（arts du langage）：文学（物語、詩）
3. 日常芸術（arts du quotidien）：デザイン、工芸品
4. 音声芸術（arts du son）：音楽（器楽、声楽）
5. スペクタクル芸術（arts du spectacle vivant）：演劇、ダンス、サーカス、マリオネット
6. 視覚芸術（arts du visuel）：造形芸術、映画、写真

芸術史は各芸術、各時代、各文明の偉大な作品を鑑賞することで生徒各自が文化遺産の後継者であることを自覚し、感性を磨くことを目的としている。学外での芸術鑑賞（美術館見学、音楽作品鑑賞、映画を含むスペクタクル観劇など）や映像分析などにより鑑賞力の涵養に力を注ぐ一方で、芸術を科学技術文化あるいは観念・社会・文化・宗教などの歴史と関連づける横断的アプローチも求められている。例えば、芸術作品を神話や宗教、国家や権力、時間と空間との関係でとらえたり、表現形式を技術との関わりでとらえるという具合である。映画についてどのようなアプローチが可能かについて、恐らく教育現場でこれから悪戦苦闘が続くと思われる²⁴。

芸術史で映画の占める位置は限られているが、芸術史の導入をあえて映画研究史の観点から見直すと映画記号論の後に歴史的アプローチが加わったことは構造から歴史への流れを感じさせる。他方で、映画記号論の影響下にあれだけ多くの研究書、大学レベルの啓蒙書・解説書が出ているにも拘わらず、映画教育を担当できる教員の養成が不十分であったという事実も考えざるをえない。映画記号論の教育利用に現場で十分に対応できなかった部分を、現場教員のチームによるいわばブリコラージュ的実践でカバーさせようとする極めて現実的な要請があったのではないか。

最後に映画館での映画鑑賞プログラムに触れないわけにはいかない。フランスの映像教育の特長は正に映画の鑑賞教育に特に力を入れている点にあるからである。しかもそれを実際の映画館で行うという点には映画産業を保護しようとするフランスの文化政策の反映も見てとれるが、他方で映画と映画館を不可分の体験と考えるシネフィルの熱き伝統も感じられる。このプログラムはフランス国立映画センター（CNC）が中心となり作成され、1994年以降、小中高ともに地方の映画館で推薦映画を見に行けるようになった。しかも、それを全国規模で実行に移す「映画の子供」協会（L'association *Les enfants de cinéma*）は上映を組織するだけでなく、各映画毎に充実した学習用資料を提供し、さらに指導者養成プログラムも用意するなど、学校教育へのスムーズな導入を図っている。

小学生を対象としたプログラムは「小学校と映画」"école et cinéma" と呼ばれ、幼稚園年長 GS（5－6歳）から小学校最終年 CM2（10－11歳）までを対象とし、推薦映画リストには世界中の名作が含まれている。この中から地方の教育委員会（académie）が毎年数本選んで子どもたちに見せるので

ある。以下は 2009/2010 年度の実績である（巻末には CNC が選定した 2009/2010 年度の長編映画カタログを載せた）。

県数：(101 県中) 93、学校数：8241、クラス数：27303、登録生徒数：645258（全生徒の 11,6%）、参加映画館数：1043（全国映画館の 50,5%、巡回上映含む）、入場数：1667342、上映作品：74 本

長編映画のリストをみると数の多さにも驚くがそれ以上に選ばれた映画の質に舌を巻く。正に世界映画史に冠たる名作揃いなのだ。ジャンルはアニメ、ミュージカル、コメディ、フィルム・ノワール、SF に及び、時代的にも 1910 年代後半の無声映画から 1990 年代に及ぶ。コクトーの『美女と野獣』やドゥミエの『ロバの皮』はともに童話を題材にしているとはいえ、子供を対象に作られたものではない。ミュージカルというジャンルの選択自体がおもしろいが、『オズの魔法使い』はまだしも『ロシュフォールの恋人たち』はジーン・ケリーがゲスト出演するアメリカ・ミュージカルへのオマージュである。タチのコメディが 2 本入っているが、コメディとはいえタチのパントマイム風演技が微妙な超脱性を醸し出す玄人好みの喜劇である。相手が小学生とはいえ、本物（本当に良いもの）を見せるという妥協のない意気込みが感じられる。

さらに 2009/2010 年度の長編映画カタログにある 69 本を国別にみるとフランスが 22 本、アメリカが 19 本で二カ国だけで半分近くを占めるにしても、その他に英国が 5 本、日本、中国、イランといったアジアの国からそれぞれ 3 本ずつ、イタリア、ドイツが 2 本、韓国、チェコスロバキア、ニュージーランド、セネガルが 1 本ずつといった具合に世界中から選りすぐりの映画を集めつつも、同時に異文化教育も考慮した配分もうかがえる。

中学生を対象にしたプログラムは 1989 制定の最初の鑑賞プログラムで、「映画館の中学」"collège au cinéma" と呼ばれ、第 6 学級（11-12 歳）から第 3 学級（14-15 歳）までが対象となる。1 学期に最低 1 本の鑑賞が勧められている。試行段階の 1989/90 年度では参加県が 7 県、参加生徒が 8502 名であった。その後、1993/94 年度には 300,000 人に達し、その後徐々に増加してきた。以下は 2004/2005 年度の実績である²⁵。

県数：(101 県中) 88、学校数：3380（全中学校の半数）、参加教員数：17724（全教員の 7,2%）、登録生徒数：518330（全生徒の 16,5%）、参加映画館数：1066（全国映画館の 50,1%）、上映回数：8500、入場数：1269607（同年度総入場者数の 1%）、上映作品：37 本

鑑賞映画の内容については巻末に CNC が選定した 2011/2012 年度の推薦長編映画リスト（全 60 本）を載せた。これを見ると国別割合は、フランス 42%（25 本）、アメリカ 20%（12 本）、ヨーロッパ 21%（13 本）、その他 11 本（日本 2 本を含む）となっている。これを 2004-2005 年度のものと比較すると、全本数が 37 本から 60 本に増えているが、国別割合でみるとフランス映画の増加（35% = 13 本 → 42% = 25）とアメリカ映画の減少（32% = 12 本 → 20% 12 本）が目につく。欧米圏以外の割合は変わらないが数は二倍になっている。フランス映画の保護と欧米圏以外（アジア、中東、南米など）への関心の高まりが読み取れるだろう。

ジャンルの多様性（アニメ、西部劇、ミュージカル、サスペンスなど）については「小学校と映画」と同様だが、一方で新作映画が多い（2000 年以降のものが 41%、25 本）。なお、「映画館の中学生」の上映映画はすべてオリジナル版で吹き替え版はない。

参考資料

1. 「小学校と映画」 "école et cinéma" 2010/2011 年度の推薦長編映画リスト (『 』内は邦題、ゴチックは米仏以外の国名)

略号：VF：仏語版、VOST：原語（仏語字幕）、N&B：白黒、C1：幼稚園年少（PS）＋年中（MS）、C2：幼稚園年長（GS）＋小学校 11 学級（CP）＋10 学級（CE1）、C3：小学校 9 学級（CE2）＋8 学級（CM1）＋7 学級（CM2）

1. *I, 2, 3... Léon !* : 4 films, divers, 45', VF. (C2)、短編アニメ 4 作品
2. *L'Argent de poche* : François Truffaut, France-1976, 104' VF (C2) 『トリュフォーの思春期』
3. *Les Aventures de Pinocchio* : Luigi Comencini, Italie-1972, 135' VOST/VF (C2, 3)、テレビシリーズ
4. *Les Aventures de Robin des bois* : W. Keighley, Michael Curtiz, USA-1938, 102' VOST/VF (C2, 3) 『ロビンフッドの冒険』
5. *Azur et Asmar* : Michel Ocelot, France-2006, 99' VF (C2, 3) 『アズールとアスマール』アニメ
6. *La Belle et la Bête* : Jean Cocteau, France-1945, N&B, 100' VF (C2, 3) 『美女と野獣』
7. *Le Bonhomme de neige*, Diane Jackson, GB 1982, 30' sonore -musical (C1) 『スノーマン』アニメ・ミュージカル
8. *Bonjour*, Yasujiro Ozu, Japon-1959, 94', VOST (C3) 『お早よう』小津安二郎監督
9. *Boudu sauvé des eaux* : Jean Renoir, France-1932, N&B, 83 ' VF (C3) 『素晴らしき放浪者』
10. Les 5 Burlesques [短編喜劇集]
 - 1-*Charlot fait une cure* (the cure), Charlie Chaplin, USA-1917, N&B, 17' 『チャップリンの霊泉』
 - 2-*Charlot s'évade* (The adventurer), Charlie Chaplin, USA-1917, N&B, 20' 『チャップリンの冒険』
 - 3-*Malec forgeron* (The blacksmith), Buster Keaton, USA-1922, N&B, 20' 『キートンの鍛冶屋』
 - 4-*Non, tu exagères !* (Now you tell one !), Charley Bowers, USA-1926, N&B
 - 5-*Pour épater les poules* (Egged on), Charley Bowers, USA-1925, N&B
11. *Le Cerf-volant du bout du monde* : Roger Pigaut, France-1958, 82' VF+VO chinoise (C2, 3)、仏中合作映画
12. *Chang, drame de la vie sauvage* (Chang, a drama of the wildness) : Merian C. Cooper et Ernest B. Schoesack, USA-1927, N&B, muet, cartons, VF, 70 ' (C2, 3)、シャム農民を描いたドキュメンタリー無声映画
13. *Chantons sous la pluie*, Stanley DONEN et Gene KELLY, USA-1952, 1h42, VOST/VF (C3) 『雨に唄えば』ミュージカル
14. *Le Cheval venu de la mer* (Into the West) : Mike Newell, GB-USA-1994, 100 ', VOST/VF (C3) 『白馬の伝説』
15. *Le chien jaune de Mongolie*, Byambasuren Davaa, Allemagne-2006, 93', VOST/VF (C2, 3) 『天空の草原のナンサ』
16. *Le Cirque* (The Circus) : Charles Chaplin, USA-1928, N&B, muet (sonorisé en 1969), 70' VF. (C2, 3) 『サーカス』
17. *Contes Chinois*, Cycle II : H. Jinqing, Z. Keqin Te Wei, Ah Da Chine-1980/88, 35' (C1, 2)、短編アニメ 3 作品
18. *Contes Chinois*, Cycle III : H. Jinqing, Z. Keqin Te Wei, Ah Da Chine-1980/88, 49' (C3)、短編アニメ 3 作品
19. *Les Contes de la mère poule* : 3 films, Iran-2000, 46', sonore - musical (C1, 2)、短編アニメ 3 作品
20. *Les Contrebandiers de Moonfleet* (Moonfleet) : Fritz Lang, USA, 1955, 90', VOST 『ムーンフリート』

21. Courts-métrages, Cycle II, 4 films, divers, 42', VF (C2)、短編 4 作品 (実写 2 本、アニメ 4 本)
22. Courts-métrages, Cycle III, 5 films, divers, 55', VF (C3)、短編 5 作品 (実写 2 本、アニメ 3 本)
23. *La croisière du Navigator* : Buster Keaton, USA, 1924, N&B, 65' (C2, 3) 『海底王キートン』
24. *Les Demoiselles de Rochefort* : Jacques Demy, France-1967, 120' (C2, 3) 『ロシュフォールの恋人たち』
ミュージカル
25. *Edward aux mains d'argent* : Tim Burton, USA-1990, 103 ' VOST/VF (C3) 『シザーハンズ』
26. *L'Etrange Noël de M. Jack* (Nightmare before Christmas) : Henry Selick et Tim Burton, USA-1994,
animation, 75', VOST/VF (C2, 3) 『ナイトメア・ビフォア・クリスマス』 ミュージカル・アニメ
27. *Le Garçon aux cheveux verts* (The Boy With Green Hair) : Joseph Losey, USA-1948, 82 ', VOST (C3) 『緑
の髪の少年』
28. *Goshu et le violocentliste* : Isao Takahata, Japon-1981, 63' (C2, 3) 『セロ弾きのゴーシュ』 高畑勲監督、
アニメ
29. *Gosses de Tokyo* (Umarete wa Mita Keredo) : Yasujiro Ozu, Japon-1932, N&B, 90' (C2, 3) 『生まれてはみ
たけれど』 小津安二郎監督、無声映画
30. *L'histoire sans fin* (The Neverending Story - Die Unendliche Geschichte) : Wolfgang Petersen,
Allemagne-1984, 90', VF (C2, 3) 『ネバーエンディングストーリー』
31. *L'homme qui rétrécit* (The Incredible Shrinking Man) : Jack Arnold, USA-1957, N&B, 81' VOST /VF (C3)
『縮みゆく人間』 SF
32. *L'Homme invisible* (The Invisible Man) : James Whale, USA-1933, N&B, 70', VOST (C3) 『透明人間』 SF
33. *Jacquot de Nantes* : Agnes Varda, France-1991, N&B et Coul., 118'. (C3) 『ジャック・ドゥミの少年期』
34. *Jason et les Argonautes* (Jason and the Argonauts): Don Chaffey, GB-1963, 104', VOST/VF (C2, 3)、『ア
ルゴ探検隊の大冒険』 特撮
35. *Jeune et innocent* (Young and Innocent) : Alfred Hitchcock, GB-1937, N&B, 80', VOST/VF (C3) 『第3 逃
亡者』 サスペンス [ヒッチコック英国時代の作品]
36. *Jiburo* : Lee Jung-hyang, Corée-2002, 87', VOST/VF (C2, 3) 『おばあちゃんの家』
37. *Jour de fête* : Jacques Tati, France-1949 - v. coul., 78' 『新のんき大将』 喜劇、カラー版
38. *La Jeune Fille au carton à chapeau* : Boris Barnet, Russie 1927, N&B, 60' (C3) 『帽子箱を持った少女』
39. *Katia et le crocodile* (Kata a krokodyl) : Vera Simkova et Jan Kusera, Tchécoslovaquie-1966, N&B, 87',
VF (C2)、アニメ
40. *King Kong*, M.C. Cooper, E.B Schoedsack, USA-1933, N&B, 100' VOST/VF (C3) 『キングコング』
41. *Kirikou et la Sorcière* : Michel Ocelot, France-1998, 70' VF (C2, 3) 『キリクと魔女』 アニメ
42. *Le Magicien d'Oz* (The Wizzard of Oz) : Victor Fleming, USA-1939, N&B et Coul, 97' VF (chansons en
version originale) (C2, 3) 『オズの魔法使い』 ミュージカル
43. *Le Mecano de la General* (The General) : Buster Keaton , USA-1926, N&B, 75' muet (chansons en version
originale) (C2, 3) 『キートンの大列車追跡』 喜劇、無声映画
44. *Le Monde vivant* : Eugène Green, France-2003, 75' VF (C3)
45. *La nuit du chasseur* (The night of the hunter) : Charles Laughton, USA-1955, N&B, 93' VOST (C3) 『狩人
の夜』 フィルム・ノワール
46. *Où est la maison de mon ami ?* (Khane-ye doust kodjast?) : Abbas Kiarostami, Iran-1987, 85' VOST (C3)『友
だちのうちはどこ?』 キアロスタミ監督
47. *Paï* : Niki Caro, Nouvelle-Zélande /Allemagne/USA-2002, 101' VOST/VF (C3)
48. *Le Passenger* (Mossafer) : Abbas Kiarostami, Iran-1974, N&B, 71' VOST (C3) 『トラベラー』 キアロス

タミ監督

49. *Peau d'âne* : Jacques Demy, France-1970, 100' VF (C2, 3) 『ロバの皮』
50. *Le Petit Fugitif* (The Little Fugitive): Morris Engel, USA-1953, N&B, 80' VOST/VF (C2, 3) 『小さな逃亡者』
51. *La Petite Vendeuse de Soleil* : Djibril Mambety Diop, Sénégal/France/Suisse-1998, 43' VOST (C3) [ストリート・チルドランを描いたドラマ]
52. *Petites Z'escapades* : 6 films, France-1985-2001, 32' VF (C1, 2)
53. *La Planète sauvage* : René Laloux - Roland Topor, France-1973, 72' VF (C3)
54. *Ponette* : Jacques Doillon, France-1996, 100' VF (C3)
55. *Princes et princesses* : Michel Ocelot, France-2000, 70' VF (C2, 3)
56. *La Prisonnière du désert* (The Searchers) : John Ford, USA-1956, 119' VOST/VF (C3) 『搜索者』 西部劇
57. *Princess Bride* : Rob Reiner, USA-1987, 98' VOST/VF (C2, 3) 『プリンセス・ブライド・ストーリー』
58. *Rabi* : Gaston Kaboré, Burkina-Faso-1992, 62' VOST. (C3)
59. *Regards libres*, programme de courts-métrages composé de *Gbanga Tita*, *L'illusionniste*, *Petite Lumière*, *Le chœur*, *Regards libres* : Thierry Knauff, Alain Cavalier, Alain Gomis, Abbas Kiarostami, Romain Delange, N&B et Coul, 60' VOST (C3)
60. *Le Roi des masques* : Wu Tianming, Chine-1998, 101' VOST/VF (C3) 『變臉 この權に手をそえて』
61. *La table tournante* : Paul Grimault, France-1988, 78' N&B et coul. VF (C2, 3) 『ポール・グリモー短編傑作集』 アニメ
62. *U* : G. Solotareff, Serge Elissalde, France-2005, 75' VF (C3)、アニメ
63. *Un animal, des animaux* : Nicolas Philibert, France, 60' VF (C3)、ドキュメンタリー
64. *Les Vacances de Monsieur Hulot* : Jacques Tati, France-1953, N&B, 96' VF (C2, 3) 『ぼくの伯父さんの休暇』 喜劇 [ジャック・タチ]
65. *La vie est immense et pleine de dangers* : Denis Gheerbrant, France-1994, '80' VF (C2, 3)
66. *Le Voleur de bicyclette* (Ladri di biciclette) : Vittorio De Sica, Italie-1948, N&B, 92' VOST/VF (C3) 『自転車泥棒』 ネオリアリズム、少年の視点 [ヴィットリオ・デ・シーカ]
67. *Le Voleur de Bagdad* : Ludwig Berger, Mickael Powel, Tim Whelan, GB-1940, 106' VOST/VF (C3) 『バグダッドの盗賊』
68. *Le Voyage de Chihiro* : Hayao Miyazaki, Japon 2001, 120' VF (C3) 『千と千尋』 アニメ [宮崎駿]
69. *Zéro de conduite* : Jean Vigo, France-1933, N&B, 44' VOST (C3) 『操行ゼロ』 [ジャン・ヴィゴ]

2. 「映画館の中学生」 "collège au cinéma" 2011/2012 年度の推薦長編映画リスト (『 』内は邦題、ゴチックは米仏以外の国名、および 2000 年以後の年代)

- 略号 : N/B : 白黒、6/5ème : 中学校 1, 2 年 (11~13 歳)、4/3ème : 中学校 3, 4 年 (13~15 歳)、
1. *Abouna* : Mahamat Saleh HAROUN, France-2003, 1h21 (6/5ème)
 2. *L'Ami retrouvé* : Jerry SCHATZBERG, USA-1988, 1h51 (4/3ème) 『レユニオン』
 3. *Les Apprentis* : Pierre SALVADORI, France-1995, 1h35 (4/3ème)
 4. *L'Apprenti* : Samuel COLLARDEY, France-2007, 1h25 (4/3ème)
 5. *Argent de la vieille* : Luigi COMENCINI, Italie-1977, 1h58 (6/5ème)
 6. *Au revoir les enfants* : Louis MALLE, France/Allemagne-1987, 1h43 『さよなら子供たち』
 7. *Le Bal des vampires* : Roman POLANSKI, GB-1968, 1h50 (6/5ème) 『吸血鬼』 パロディ
 8. *Bashu, le petit étranger* : Bahram BEIZAI, Iran-1991, 2h (6/5ème) 『パシユー / 小さな異邦人』 イラン

9. *Brendan et le secret de Kells* : Tom MOORE, Irlande-2008, 1h15 (6/5ème) 『ブレンダンとケルズの秘密』 アニメ
10. *Le Cameraman* : Buster KEATON, USA-1928, N/B 1h07 『キートンのカメラマン』
11. *Chantons sous la pluie* : Stanley DONEN et Gene KELLY, USA-1952, 1h42 『雨に唄えば』 ミュージカル
12. *Les Citronniers* : Eran RIKLIS, Israël/France-2008 1h46 (4/3ème) 『レモン・ツリー』 イスラエル
13. *Courts de cinéma* : France/Autriche, 1h09 (Prog CM 4/3)
14. *Courts métrages* (programme en cours d'élaboration)
15. *Cria Cuervos* : Carlos SAURA, Espagne-1976, 1h52 (4/3ème) 『カラスの飼育』
16. *Dans les cordes* : Magaly RICHARD-SERRANO, France-2007, 1h33 (4/3ème) 『リングの中で』
17. *En matières d'animation* : Adam Elliot, Michaël Dudok de Wit, Vincent, Bierrewaerts, Régina Pessoa, Pjotr Sapegin, Florence Mialhe, 1h07 (Prog CM 6/5) アニメ
18. *L'Enfance nue* : Maurice PIALAT, France-1970, 1h23 (4/3ème)
19. *L'Enfant noir* : Laurent CHEVALLIER, France/Guinée-1995, 1h32 (6/5ème)
20. *L'Enfant sauvage* : François TRUFFAUT, France-1969, N/B 1h23 『野生の少年』
21. *Fantastic M. Fox* : Wes ANDERSON, USA-2009, 1h28 (6/5ème) 人形劇
22. *Fenêtre sur cour* : Alfred HITCHCOCK, USA-1954, 1h32 (6/5ème) 『裏窓』 サスペンス
23. *La Flèche brisée* : Daves DELMER, USA-1950 1h33 (6/5ème) 『折れた矢』 西部劇
24. *Les Glaneurs et la glaneuse* : Agnès VARDA, France-2000, 1h35 (6/5ème) 『落穂拾い』
25. *Le Grand voyage* : Ismaël FERROUKHI, France/Maroc-2004 1h48 (6/5ème) 『長い旅』 ロードムービー
26. *Gremlins* : Joe DANTE, USA-1984, 1h45 (6/5ème) 『グレムリン』
27. *L'Ile de Black Mor* : Jean François LAGUIONIE, France-2003, 1h25 (6/5ème)
28. *Joue là comme Beckham* : Gurinder CHADHA, GB, 2002, 1h52 (6/5ème) 『ベッカムに恋して』
29. *Kamchatka* : Marcelo PINEYRO, Espagne-2004, 1h44 (4/3ème) 『カムチャッカ』
30. *Kes* : Ken LOACH, GB, 1970, 1h50 (6/5ème) 『ケス』
31. *Libéro* : Kim ROSSI STUART, Italie-2006, 1h48 (4/3ème) 『気ままに生きて』
32. *Looking for Eric* : Ken LOACH, GB-2008, 1h59 (4/3ème) 『エリックを探して』
33. *Mes petites amoureuses* : Jean EUSTACHE, France-1974, 2h03 (4/3ème) 『ぼくの小さな恋人たち』
34. *Mon ami Machuca* : Andres WOOD, Chili-2004, 2h (4/3ème) 『マチュカ〜僕らと革命〜』 チリ
35. *Mon Oncle* : Jacques TATI, France-1958, 1h50 『ぼくのおじさん』 コメディ
36. *La Mort aux trousses* : Alfred HITCHCOCK, USA-1959, 2h16 『北北西に進路をとれ』 サスペンス
37. *Muhsin* : Yasmin AHMAD, Malaisie, 2007, 1h34 (6/5ème) 『ムクシン』 マレーシア
38. *Le Mystère de la chambre jaune* : Bruno PODALYDES, France-2002, 1h58 『黄色の部屋の秘密』
39. *Osama* : Sedigh BARMAN, Afghanistan-2003, 1h22 (4/3ème) 『アフガン零年』 アフガニスタン
40. *Persepolis* : Marjane SATRAPI et Vincent, France-2007, 1h35 (4/3ème) 『ペルセポリス』 アニメ
41. *Le Petit criminel* : Jacques DOILLON, France-1990, 1h48 (6/5ème) 『ピストルと少年』
42. *Petits frères* : Jacques DOILLON, France-1999, 1h32 『少年たち』
43. *La Pivellina* : Tissa COVI et Rainer FRIMMEL, Italie- 2009, 1h30 (6/5ème)
44. *Princesse Mononoké* : Hayao MIYAZAKI, Japon-1997, 2h13 (6/5ème) 『もののけ姫』 日本
45. *Promesses* : C. BOLADO, B.Z. GOLDBERG, J.SHAPIRO, USA-2001, 1h46 『プロミス』 ドキュメンタリー
46. *Les 400 coups* : François TRUFFAUT, France-1959, N/B 1h33 『大人はわかってくれない』

47. *Les Raisins de la colère* : John FORD, USA-1940, 2h10 (4/3ème) 『怒りの葡萄』
48. *Ridicule* : Patrice LECONTE, France, 1996, 1h42 (4/3ème) 『リディキュール』
49. *Rue cases nègres* : Euzhan PALCY, France-1983, 1h45 (6/5ème) 『マルチニクの少年』
50. *Rumba* : Dominique ABEL, Fiona GORDON et Bruno ROMY, France/Belgique-2008, 1h17 (6/5ème) 『ルンバ!』
51. *Sa majesté des mouches* : Peter BROOK, GB-1965, 1h32 (4/3ème) 『蠅の王』
52. *Sacré Graal* : Terry JONES et Terry GILLIAN, GB-1975, 1h30 (6/5ème) 『モンティ・パイソン・アンド・ホーリー・グレイル』 コメディ
53. *Stella* : Sylvie VERHEYDE, France, 2007, 1h43 (6/5ème) 『ステラ』
54. *Les Temps modernes* : Charles CHAPLIN, USA-1936, N/B 1h25 『モダン・タイムズ』 コメディ
55. *Tex Avery Follies* : Tex AVERY, USA-1964, 1h15
56. *This is England* : Shane MEADOWS, GB-2006, 1h37 (4/3ème) 『This is England』
57. *Le Tombeau des lucioles* : Isao TAKAHATA, Japon-1989, 1h25 (4/3ème) 『火垂るの墓』 アニメ、日本
58. *Une vie toute neuve* : Ounie LECOMTE, Corée-2008, 1h35 (4/3ème) 『冬の小鳥』 韓国
59. *La Visite de la fanfar* : Eran KOLIRIN, Israël-2007, 1h26 (4/3ème) 『迷子の警察音楽隊』 イスラエル
60. *Zéro de conduite* : Jean VIGO, France-1933, N/B 0h41(6/5ème) 『新学期・操行ゼロ』

¹ 関野嘉雄『映画教育の理論』小学館、1942年、p. 276

² 「文部科学省選定映画」、「特別選定映画」は、教育現場で視聴覚教材を利用する際の指針として、教育映像等審査規程（昭和二十九年文部省令第二十二号）に基づいて、「学校教育の教材」「社会教育の教材」「一般劇映画及び一般非劇映画」の三つのカテゴリーについて教育的価値の高い映像作品（紙芝居も含む）を選定し、その中でも特に優れたものを特別選定とする仕組みである。対象層も指定され、「学校教育の教材」の場合は幼稚園幼児向き、小学校低学年児童向き、小学校中学年児童向き、小学校高学年児童向き、中学校生徒向き又は高等学校生徒向きの6区分がある。「社会教育の教材」は幼児向き、少年向き、青年向き又は成人向き、「一般劇映画及び一般非劇映画」は幼児向き、少年向き、青年向き、成人向き又は家庭向きにそれぞれ区分が設けられている。

³ 国民教育省（L'Education Nationale）のホームページ「映像・映画・視聴覚 教育」("L'éducation à l'image, au cinéma et à l'audiovisuel"、2012年3月版)より抜粋。2010-11年度版巻頭言と比較すると言語学習との関連づけが落ちており、また教養・自立といった抽象的な表現が抑えられている。同ホームページ（2011年3月版）は次の通り。「映像、映画、視聴覚教育は各生徒が学ぶべき知識や能力の基礎学習に役立つ。言語学習を可能にし、人文教養を育てる。古典的作品や現代作品へのアプローチを助け、生徒の自立、自発性を高める。」

⁴ 実際にはことはそれほど単純ではないようである。「フランスにおいても、公教育の中で映画をどのように位置づけ、教えるのかということについては様々な議論が繰り返されており、映画もメディアのひとつとして教えるべきであり、映画だけを特別扱いするべきではないと考える人々も少なくない」『諸外国及びわが国における「映画教育」に関する調査』、p. 25

⁵ 法的には1950年10月の政令で発足し、1963年6月の政令で閉鎖されるが、実際には1948年からソルボンヌで授業が行われていた。設立当初の1947年には5つの部門（1. 実験的研究、2. 文献・歴史研究、3. 美学・社会学研究、4. 比較研究、5. 応用研究）からなっていたが、翌年には4部門（1. 心理研究 [Henri Wallon]、2. 技術研究 [Gilbert Cohen-Séat]、3. 一般映画学・哲学 (Raymond Bayer)、4. 比較研究 [Mario Roques]) に再編される。

- ⁶ センターメンバーに加え、初年度の講演者には当時の人文・社会科学を代表する顔ぶれが揃っている。
- ポール・フレス、イヴ・ギャリフレ、セルジュ・ルボヴィシ、ジョルジュ・フリードマン、アンリ・ルフェーヴル、レオン・ムシアック、ピエール・フランカステル、ジャン・イポリット、モーリス・メルロポンティ、ジョルジュ・サドウル、ジャン・ポミエ、ジャン・ヴァンドリス、エティエンヌ・スーリオ、ジャン・ポール・サルトル (Martin Lefebvre, 脚注 8 参照)
- ⁷ フィルモロジーの直接的貢献としては *L'univers filmique* (Étienne Souriau, éd., Flammarion, 1953), *L'essai sur les principes d'une philosophie du cinéma* (Gilbert Cohen-Séat, PUF, 1946: 邦訳『映画哲学試論』) がある。間接的には、パリ映画学研究所の研究員を 10 年務めたモランの諸著作がある。*Le cinéma ou l'homme imaginaire*, Minuit, 1956 (邦訳『映画あるいは想像上の人間: 人類学的試論』)、*Les Stars*, Seuil, 1957 (『スター』)、*Esprit du temps*, Grasset, 1962 (『時代精神: 大衆文化の社会学』)。また、フィルモロジー研究の成果を利用した著作として、Jean Mitry, *Esthétique et psychologie du cinéma* (Cerf, 1963 et 1965)、Christian Metz, *Essais sur la signification au cinéma* (Klincksieck, 1968 et 1972: 邦訳『映画記号学の諸問題』『映画における意味作用に関する試論—映画記号学の基本問題』)、*Langage et cinéma* (Albatros, 1971) を挙げておこう。
- ⁸ 大衆芸術である映画に大衆を動かす可能性があるとしたら、場合によっては国家の安全や公衆秩序を脅かしかねない。こうした政治的な危惧と研究所が得た豊富な国家予算の関わりをたどった研究が以下である。研究所と、その生みの父であり、運命をともにしたコアン・セアとの関わりについても詳しい。Martin Lefebvre, "L'aventure filmologique: documents et jalons d'une histoire institutionnelle", *Cinémas: revue d'études cinématographiques*, Volume 19, numéro 2-3, printemps 2009, p.59-100.
- ⁹ パリ第 8 大学芸術学部の映画科 (Arts du spectacle - cinéma) の要項によれば、理論 (美学的・歴史的アプローチ) と実践の教育を通して、映画・視聴覚について (分析・創造・制作・配給などの具体的プロセスの) 一般的、理論的、実践的知識を獲得できる。インターンシップによる現場経験もできるとなっている。
- ¹⁰ 以下の記述では文化コミュニケーション省のページ "Historique: L'éducation artistique à travers ses grandes dates" (<http://www.culture.gouv.fr/culture/actualites/politique/education-artistique/educart/dates.htm>) を主に参考にした。
- ¹¹ 西欧を模倣して構築された日本の近代教育制度は、芸術や体育に関しては西欧よりもはるかに力が入れられてきた。両者をそれぞれ象徴する文部省唱歌や運動会に対応するものは西欧にはない。
- ¹² 高等教育、大学レベルでの映画教育については別の機会に詳述する。
- ¹³ PAC については第 5 章を参照。
- ¹⁴ 芸術史についても第 5 章を参照。
- ¹⁵ フランスにおける現在の教育システムについては、フランス教育省のホームページ (<http://www.education.gouv.fr/>) における 2012/13 年度 (2012 年 9 月更新) の情報が中心となる。
- ¹⁶ マルチメディアやインターネットの運用力を見る。次の 5 項目が審査対象となる (80/100 点で合格)。
- コンピュータの作業環境を使いこなせる、責任ある態度がとれる、データの創造・生産・処理・利用ができる、必要な情報を得られる、他者とコミュニケーションできる。
- ¹⁷ 幼稚園年長 (Grande Section) は第 1、第 2 の二サイクルにまたがっている。生徒それぞれの到達度にも依るが、通常は年長前期が第 1、後期が第 2 サイクルとして実施されている。
- 第 1 サイクル 5 領域それぞれの具体的目標は次の通り。

- ①言語活動を身につける（言語学習の第1歩：行為・想起・伝達の言語、抽象化能力の涵養、図画的な文字練習、アルファベット規則の発見）。書き言葉を発見する。
- ②生徒になる（友だちや大人とコミュニケーションを行う、グループ活動に参加する）。
- ③身体を使って行動し、表現する（遊びを通じた身体活動、ボディ・ランゲージ、他の活動との関連づけ）。
- ④世界を発見する（感覚による様々な発見、衛生問題への関心、生物世界の観察、諸概念〔空間・時間・量・数〕へのアプローチ）。
- ⑤知覚し、感じ、想像し、創造する（視覚的活動、デッサン、声を使った活動、映像・声で遊ぶ、簡単な楽器〔三角、丸、四角〕での音楽活動）。

参考までに日本における現行の幼稚園教育要領が設ける保育5領域を挙げておく。

- 1)「健康」心身の健康、2)「人間関係」人とのかかわり、3)「環境」身近な環境とのかかわり、4)「言葉」言葉の獲得、5)「表現」感性と表現。

¹⁹ 第2サイクル7領域それぞれの具体的目標は次の通り。

- ①フランス語 (Français)：年長 (GS) 後半での学習成果（話し、聞く、人前で話す、大人が読む物語の理解、アルファベット）に基づき、小学校では読み（語、文、文章）、書き、話し、語彙をさらに進める。文法・つづり学習の始まり。
- ②数学 (Mathématiques)：数と計算（優先目標）。問題解決、暗算練習。
- ③体育・スポーツ (Éducation physique et sportive)：身体能力を伸ばす。身体・スポーツ・芸術活動の第1歩。体を動かす喜び、頑張る力、自己と他者を知る、健康管理。
- ④外国語 (Langue vivante)：話し言葉中心（話し、聞く能力）。話し言葉と書き言葉の関係。
- ⑤芸術実践と芸術史 (Pratiques artistiques et histoire des arts)：芸術実践と芸術史に基づく文化的知識の相乗効果により、芸術的感性・表現力を伸ばす。正確な語彙により、感じたことや自分の趣味について語る。芸術作品との出会いにより鑑賞、表現、比較できるようにする。
- ⑥世界の発見 (Découverte du monde)：時間・空間をとらえる基準、世界についての知識を用語とともに学ぶ。観察を通じた新しい見方。コンピュータ基礎（情報・インターネット免状 [B2i] への第1歩）。
- ⑦公民・道徳 (Instruction civique et morale)：社会における礼儀・行動の規範、責任ある行動、自立心。

なお、生徒は、第2サイクルの最後に当たる小2 (CE1) の時点で、フランス語、数学および社会・公民の成績に基づき学習到達度を評価される。

²⁰ 第3サイクルの各領域それぞれの具体的目標は次の通り。

- ①フランス語 (Français)：フランス語のマスター（話し言葉・書き言葉での正確・明快な表現）は他教科（科学、数学、歴史、地理、体育、芸術）にも影響。読み書き・文法・つづりカリキュラム。文学カリキュラム。
- ②数学 (Mathématiques)：数学実践により探求心・論証力・想像力・抽象力・厳密さ・正確さを涵養。小3 (CE2) ～小5 (CM2) で数学的知識・手段・解法、暗算力を強化。数学理解に必要なオートマチズム。
- ③体育・スポーツ (Éducation physique et sportive)：運動能力の強化、身体・スポーツ・芸術活動の実践。健康・安全教育。（ルールの尊重、自己と他者の尊重を通して）道徳的・社会的価値に目覚めさせ責任・自立心を養う。
- ④外国語 (Langue vivante)：小3 (CE2) より話し聞く活動が中心（語彙・発音・基本構文）。異文化理解。小5 (CM2) 終了時に、ヨーロッパ言語共通参照枠 (Cadre européen commun de

référence pour les langues) の A1 レベルを目指す。

⑤実験科学とテクノロジー (Sciences expérimentales et technologies) : 観察・問題提起・実験・論証などの実践を通して現実世界 (自然界と人間界) を理解・記述し、それに働きかけ、人間の行為がもたらした変化を制御できるようにする。

⑥情報伝達技術 (Techniques usuelles de l'information et de la communication) : デジタル文化に必要なコンピュータ・マルチメディア・インターネットの賢い使い方を学ぶ。小学校で責任ある態度を教える。コンピュータの使い方を身につける (コンピュータ各部の機能を知る、マウス・キーボード、ワープロを使う、書類作成、メールの送受信、インターネット情報検索、情報の種類によって分類する)。

⑦人文教養 (Culture humaniste) : 世界を理解する上で歴史・地理は時間的・空間的な基準点を与え、生徒の好奇心・観察力・批判力も強める。生徒はレジュメ、年表、地図、クロッキーなどを作成。

⑧公民・道徳 (Instruction civique et morale) : クラスや学校での共同生活に溶け込めるようにする。学校生活で起こる具体的問題について考えることで道徳の基礎を意識する。

⑨芸術実践と芸術史 (Pratiques artistiques et histoire des arts) : 芸術実践により審美眼を磨き、表現力・創造力を高め、作業方法や技術を身につける。芸術史では、芸術作品を時代背景とともに見るので感性と理性による作品との出会いがあり、芸術実践に別の光が当てられることになる。

なお、生徒は、第3サイクルの最後に当たる小5 (CM2) の時点で、「知識・能力共通基盤 (socle commun de connaissances et de compétences)」7 領域の成績に基づき学習到達度を評価される。

²¹ 中学 (collège) での各領域それぞれの具体的目標は次の通り。

①フランス語 (Français) : 言語を使いこなす、文学的素養を身につける。

②数学 (Mathématiques) : 論証力・想像力・批判的分析力、数学的素養の基礎。

③外国語 (Langues vivantes) : コミュニケーション能力、異文化理解、ヨーロッパ基準への到達 (中4 [第3学級] でレベル2 : 日常的なテーマについて情報交換ができ、短く平易なテキストが理解できる)。

④古代の言語・文化 (Langues et cultures de l'Antiquité) : フランス語の起源を知る、人文教養 (歴史・法・文学・政治・芸術)、外国語学習の援助。

⑤歴史・地理・公民 (Histoire-géographie-éducation civique) : 文化的レフェランスを身につけて、時間・空間で自分を位置づける。民主的価値体系を理解し、責任ある公民になる。

⑥生命科学・地球科学 (Sciences de la vie et de la Terre) : 人体・生態系・地球・環境を理解するための科学的基礎、科学的方法 (問題提起→仮説→操作・実験)、安全規則・他者尊重の重要性、環境・健康に対する責任。

⑦物理・化学 (Physique – chimie) : 物理・化学の諸領域の基礎、実験を通じた物質・光・電気・重力の基礎学習、観察力・好奇心の涵養、科学技術の発展に対する興味と批判精神。

⑧テクノロジー (Technologie) : 技術の産物 [objets techniques] を理解・制御するのに必要な方法と知識、技術発展の歴史、技術の産物の社会や環境への影響。

⑨音楽・造形芸術 (Éducation musicale et arts plastiques) : 鑑賞力の涵養と芸術活動の実践。芸術作品の分析により多様性 [ジャンル・スタイル・時代] を学ぶ、自己表現力・創造力を身につける、音楽・造形芸術・建築・映像分野における分析方法を学ぶ。

⑩体育・スポーツ教育 (Éducation physique et sportive) : 思春期での心身の変化に対してポジティブな自己イメージをもち、新しい身体能力をもてるようにする。

⑪芸術史 (Histoire des arts) : 各芸術分野、各時代、各文明の偉大な作品を鑑賞し、後継者として遺産を理解し、豊かにすることを学ぶ。領域横断的科目のため全教員が参加する。2011 年以降、

国家中等教育修了証書 (diplôme national du brevet [D.N.B.]) 取得には芸術史の口述試験に合格する必要がある。

⑫情報科学・インターネット (Informatique et Internet) : 全教員が参加。国家中等教育修了証書 (diplôme national du brevet [D.N.B.]) 取得には「情報・インターネット免状 (B2i)」が必要。

²² 中学で学習できる 11 地方語は次の通り。バスク語、ブルトン語、カタロニア語、コルシカ語、クレオール語、ガロ語、メラネシア語、アルザス語、モーゼル語、オック語、タヒチ語。

²³ 以下では、フランス教育省のホームページ (<http://www.education.gouv.fr/>)、Portail national des professionnels de l'éducation (<http://eduscol.education.fr/>)、CNC (<http://www.cnc.fr/>)、『諸外国及びわが国における「映画教育」に関する調査』を主に参考にした。

²⁴ 教育省の参考リンクには映画年表が載せられ映画史の重要年代が挙げられているので、それを参考にすれば以下のような複合的アプローチが考えられるかもしれない。

- ・技術史：運動を再現しようとする各種試み (幻灯機、ソーマトロープなど)、トーキー [1927]、シネマスコープとカラー [1951]、デジタル 3D [2009]
- ・経済史：初期の興行形態 (縁日興行、映画館との競合、フランス映画産業の勃興) [1896-1908]、ハリウッドの成立 [1910 年代]、マルチプレックス [1990 年代～]
- ・ジャンル論：特撮映画 [1897]、バーレスク [1910-30]、西部劇とフィルムノワール [1945-55]、ヒッチコックとサスペンス [1954～]、アニメ [1930-40 年代、1980-90 年代]
- ・話法・主義：エイゼンシュタインとモンタージュ [1925～]、表現主義 [1920]、『市民ケーン』 [1941]、ネオリアリズム [1945～]、ヌーヴェルヴァーグ [1958]、ニューアメリカンシネマ [1968-80]、
- ・政治文化史：反ナチス (チャップリン『独裁者』、アラン・レネ『夜と霧』) [1939-55]、世界のヌーヴェルヴァーグ (英国、チェコスロバキア、ブラジル、日本) [1958-68]、映画地図の塗りかえ (イラン、中国) [1980-90]

²⁵ CNC の報告書 "Le bilan national détaillé 2004-2005 de Collège au cinéma" による。